

「真理の王・救い主イエス様」

～先行の恵みを感謝して受け止める～

「しかし、彼は私たちの悲しみを負い、私たちの嘆きをにないました。私たちは、彼がそんなに苦しむのは、罪を犯して神に罰せられているからだと思いました。しかし、私たちの罪のために傷つき、血を流したのです。彼は私たちに平安を与えようとして、進んで懲らしめを受けました。彼がむち打たれたので、私たちはいやされました。」

イザヤ53章4・5節 [リビングバイブル]

イエス様の十字架が直接私たちと関係があるという事実を、どれだけ私たち自身は自覚しているでしょうか？約2000年前に起った事実ではありますが、そのことが直接私たち自身の問題としてとらえるためには、その大きな隔たりを埋めていけないといけません。もちろん、その隔たりを飛び越えさせてくれるのが、聖霊様のお働きであり、信仰の力でもあります。

「先行の恵み」という言葉がありますが、神様は私たちのために、イエス様を通して、前もって永遠の救いの道を開いてくださいました。ただそのことを信じさえすればひとりひとりにその世界を実現してくださるようにしてくださいました。

イエス様は十字架を通して何をなさったか？十字架につけられる前に、「わたしは真理をあかしするためにこの世に来た」とピラトに対してお語りになりました。「真理」自身でもあるイエス様が人々の「不正」によって十字架につけられてしまいます。この世は「真理」を拒みます。「真理」を闇に葬ることを続けている、「不正」と闇の世界です。それは悪魔の世界です。

そして、イエス様はすべてを剥ぎ取られていきます。最後には着ている着物も上着は四つに引き裂かれ、下着はくじ引きで取り上げられてしまいます。そして、それは人々に強制的に取り去られたかのように見えますが、最愛のお母様のことも、亡くなる直前に、ご自身から弟子のヨハネに直接お任せになりました。

そして、最後には「わたしは渇く」とおっしゃいました。ヨハネ4章や7章では、「わたしが与える水はその人のうちで泉となり、永遠の命にいたる水が川となって湧き上がるであろう！」とご自身が決して渇くことのない水を与えるのだ！とおっしゃいましたが、その主ご自身が「わたしは渇く」とおっしゃいました。肉体の命の限界まで、経験なさいました。

そして、その直後に、「すべては終わった！」「救いの道は完成した！」と宣言され、息を引き取られました。これは一体どういうことだったのでしょうか？この世のものはすべて捨てきるという姿を持って、救いの実現を宣言されたという風に受け止めるべきなのではないでしょうか？

またそれは旧約聖書の成就であるということもヨハネは何度も語りました。主は父なる神様に従い、自ら進んでご自身を捧げ、私たちに救いの道を開いて下さったのです。